

## 第 2 回

### 垂井町現庁舎敷地等活用のあり方検討委員会

日 時：平成30年10月5日（金）

15時00分～（2時間程度）

場 所：垂井町役場3階大会議室

#### 1 委員長挨拶

#### 2 委員会での検討事項について

・第1回ワークショップまとめ・・・別紙1

・平成28年度～第1回ワークショップにおける意見・・・別紙2

・現庁舎敷地等の活用方針の検討・・・別紙3

（1）活用の基本的な考え方の整理について

（2）活用の基本的な考え方の整理のイメージについて

（3）その他

#### 3 その他

・第2回ワークショップの開催について・・・別紙4

垂井町現庁舎敷地等活用のあり方検討委員会委員

(敬称略・順不同)

No.	区分	氏名	所属等	備考
①	学識経験を有する者（1名）	竹内 治彦	岐阜経済大学 経営学部 教授	委員長
②	各種団体等が推薦する者 （5名）	長谷川 隆司	垂井町商工会	
③		木下 清	垂井町連合自治会連絡会	
④		桑原 良樹	垂井町地区まちづくり協議会連絡会	
⑤		沢島 武徳	垂井町観光協会	
⑥		衣斐 みどり	垂井町芸術文化協会	
⑦	垂井宿周辺地区コミュニティ 醸成支援業務「がやがや会議」 に参加した町民（2名）	渡辺 勉	垂井宿周辺地区コミュニティ醸 成支援業務「がやがや会議」に参 加した町民	
⑧		飯沼 奈美		
⑨	公募による町民（2名）	木村 龍也	公募による町民	
⑩		朝倉 怜子		
⑪	町職員 （3名）	永澤 幸男	副町長	副委員長
⑫		木下 誠司	企画調整課長	
⑬		太田 宣男	産業課長	

(事務局)

区分	氏名
総務課長	高橋 伸行
総務課管財係 課長補佐	小森 俊宏
総務課管財係	平埴 俊哉
〃	西脇 巧
〃	西村 仁志

(コンサルタント)

区分	氏名
中日本建設コンサルタント株式会社	佐々木 賢一
〃	岩脇 光希
〃	柴田 奈津恵

(マネジメント・アドバイザー)

区分	氏名
近畿大学産業理工学部 准教授	長谷川 直樹

## ○第1回ワークショップまとめ

〈活用思案整理シート〉

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ	合計
①若年層の定住意識を高めるまちの魅力化	1	2	1	2	0	6
②子育て環境の充実	0	1	3	1	0	5
③公共施設の老朽化・狭隘化の解消	1	0	1	1	1	4
④施設の複合化	0	1	1	0	0	2
⑤防災関連施設の効果的な配置	3	2	4	4	2	15
⑥生活サービス関連施設等の効果的な配置	1	0	0	2	0	3
⑦空き家の利活用を誘導できる活用の展開	1	0	0	1	1	3
⑧交流・集客イベントの場としての活用	1	3	2	4	3	13
⑨垂井曳やままつりを活かした観光戦略	1	4	0	1	3	9
⑩観光案内所と連携した担い手育成の場づくり	1	0	0	1	2	4
⑪子どもから高齢者までが安心して楽しめる場づくり	2	2	3	0	3	10
⑫幅広い世代が住みやすい生活サービスの提供	2	0	0	0	0	2
⑬その他	1 ・売却	1 ・災害時の避難所、防火帯等	3 ・宿泊施設を作ってほしい（公だけでなく民間でもよい）	1 ・公園（広場として）	・維持費がかからないもの ・福祉、介護、社協など福祉関係の総合的なセンター ・垂井地区の施設にならない事 ・観光客の増大を目指し施設化する	

〈活用イメージシート〉

A グループ

選んだ活用思案	活用イメージ
⑤防災関連施設の効果的な配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取り壊して更地にし、広場を多くとる。</li> <li>● 避難、防災拠点として利用</li> <li>● 車庫を利用して倉庫とし活用する（防災備品）</li> </ul>
⑫幅広い世代が住みやすい生活サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住居として利用。利便性もよく、若い世代を呼ぶ。</li> <li>● 更地にして小民家を移し、子供～3世代集める</li> </ul>
⑧交流・集客イベントの場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 楽市楽座 利益を得て財政に貢献する。</li> <li>● ランニングコストの安い施設</li> </ul>

B グループ

選んだ活用思案	活用イメージ
①②子育て世代がきたくなるところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東海道線→通勤（住宅）</li> <li>● 電車の本数を増やす→利用者増</li> <li>● 若い世帯が入る（家賃の安い）集合住宅</li> <li>● 子育て支援付きの住宅</li> </ul>
⑨垂井曳やままつりを活かした観光戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 垂井町すべての祭りを紹介する建物 高山祭屋台会館（高山市）2億4千万円？</li> <li>● 垂井曳やままつりをもっと広く発信する。</li> <li>● 垂井曳やままつり紹介センター。町内のまつり紹介センターも兼ねる。</li> <li>● 観光案内施設と複合マーケット</li> <li>● 観光の拠点、まちづくりの拠点、レッツなど出てくる。</li> </ul>
⑤防災関連施設の効果的に考える→更地	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防火目的の緑地帯</li> <li>● 災害時の避難場所として広場にする。</li> <li>● 地震時の臨時ごみ置き場用広場</li> <li>● 広場として利用→災害時用グッズの物置も作る。</li> </ul>

C グループ

選んだ活用思案	活用イメージ
⑤防災関連施設の効果的な配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時のための公共の空地（公園）。将来は住宅、他</li> <li>● 防災訓練センター（避難所設置訓練、防災関連器具を用いた訓練、災害ボランティア養成訓練）</li> </ul>
⑪子どもから高齢者までが安心して楽しめる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 映画など上映できる小さなホール、習い事の発表ができる小さなホール</li> <li>● カラオケ</li> <li>● 垂井町民が気軽に出入りできる場所作り</li> <li>● 全天候（特に冬）幼児～高齢者の交流場所</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 若い人にも活用してもらええる場づくり（若い人の意見をよく聞いて決めるとよい。）例えば、野外コンサートもできる場所</li> </ul>
⑬宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光客、ビジネスマンの宿泊所。災害時には避難所としても利用。入浴施設も有り。</li> <li>● 温泉</li> <li>● 外国人向け宿泊施設</li> <li>● 合宿所タイプ（自炊もできるし、フルサービスなども選べる）</li> </ul>

#### D グループ

選んだ活用思案	活用イメージ
⑤防災関連施設の効果的な配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建物なし：全体的には公園、アスレチック、遊具、非常時に使用できる資器材を兼ねたもの。</li> <li>● 建物あり（一部建物を残す又は作って全体を利用）：備蓄施設兼非常用利用施設、平素は自由利用</li> <li>● 大災害の場合の土地利用も考える</li> </ul>
⑧交流・集客イベントの場としての活用 ⑨垂井曳やままつりを活かした観光戦略 ⑩観光案内所と連携した担い手育成の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イベント</li> <li>● 民泊に利用</li> </ul>

#### E グループ

選んだ活用思案	活用イメージ
⑧交流・集客イベントの場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化・歴史のミュージアム常設（イベント毎でも OK）</li> <li>● 垂井の文化、文化財を生かした交流、イベントの拠点</li> <li>● 観光協会事務拠点をつくる。</li> <li>● 日帰りコース、1泊2日コース等多くのプランの情報宣伝</li> <li>● 箱物、必要度を考慮</li> </ul>
⑨垂井曳やままつりを活かした観光戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 垂井まつりで集客をして、垂井おどりを定着させる。</li> <li>● 観光アイテムに沿った集客、イベントの宣伝開催</li> <li>● トイレと駐車場</li> <li>● 宿泊所の設置</li> </ul>
⑪子どもから高齢者までが安心して楽しめる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 芝生広場、箱物は必要ない。</li> <li>● 福祉関連センター</li> <li>● 福祉、役場（支所や分室等）、社協が同じスペースで動ける。</li> <li>● シニア技術を生かし、こどものおもちゃ病院をつくる。</li> </ul>

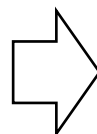
まとめ〈活用イメージシート〉

選んだ活用思案	活用イメージ
①②子育て世代がきたくなるところ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東海道線が近い→通勤に便利→住宅</li> <li>● 電車の本数を増やす→利用者増</li> <li>● 若い世帯が入る（家賃の安い）集合住宅</li> <li>● 子育て支援つきの住宅</li> </ul>
⑤防災関連施設の効果的な配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取り壊して更地にし、広場を多くとる。将来は住宅、他</li> <li>● 防火目的の緑地帯</li> <li>● 避難、防災拠点として利用</li> <li>● 車庫を利用して倉庫とし活用する（防災備品）。</li> <li>● 全体的には公園。アスレチック、遊具、非常時に使用できる資器材を兼ねたもの。</li> <li>● 備蓄施設兼非常用利用施設、平素は自由利用</li> <li>● 大災害の場合の土地利用も考える。</li> <li>● 防災訓練センター（避難所設置訓練、防災関連器具を用いた訓練、災害ボランティア養成訓練）</li> <li>● 地震時の臨時ごみ置き場用広場</li> </ul>
⑧交流・集客イベントの場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 楽市楽座。利益を得て財政に貢献する。</li> <li>● ランニングコストの安い施設</li> <li>● 文化・歴史のミュージアム常設（イベント毎でもOK）</li> <li>● 垂井の文化、文化財を生かした交流、イベントの拠点</li> <li>● 観光協会事務拠点をつくる。</li> <li>● 日帰りユース、1泊2日コース等多くのプランの情報宣伝</li> <li>● 箱物、必要度を考慮</li> </ul>
⑨垂井曳やままつりを活かした観光戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 垂井町すべての祭りを紹介する建物 高山祭屋台会館（高山市）2億4千万円？</li> <li>● 垂井曳やままつり紹介センター。町内のまつり紹介センターも兼ねる。</li> <li>● 観光案内施設と複合マーケット</li> <li>● 観光の拠点、まちづくりの拠点、レッツなど出てくる。</li> <li>● 垂井まつりで集客をして、垂井おどりを定着させる。</li> <li>● 観光アイテムに沿った集客、イベントの宣伝開催</li> <li>● トイレと駐車場</li> <li>● 宿泊所の設置</li> </ul>
⑩子どもから高齢者までが安心して楽しめる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 映画など上映できる小さなホール、習い事の発表ができる小さなホール</li> <li>● カラオケ</li> <li>● 垂井町民が気軽に出入りできる場所作り</li> <li>● 全天候（特に冬）幼児～高齢者の交流場所</li> <li>● 若い人にも活用してもらえる場づくり（若い人の意見をよく聞いて決めるとよい。）例えば、野外コンサートもできる場所</li> <li>● 芝生広場、箱物は必要ない。</li> <li>● 福祉関連センター</li> <li>● 福祉、役場（支所や分室等）、社協が同じスペースで動ける。</li> <li>● シニア技術を生かし、こどものおもちゃ病院をつくる。</li> </ul>
⑫幅広い世代が住みやすい生活サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住居として利用。利便性もよく、若い世代を呼ぶ。</li> <li>● 更地にして小民家を移し、子供～3世代集める。</li> </ul>
⑬宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光客、ビジネスマンの宿泊所。災害時には避難所としても利用。入浴施設も有り</li> <li>● 温泉</li> <li>● 外国人向け宿泊施設</li> <li>● 合宿所タイプ（自炊もできるし、フルサービスなども選べる）</li> </ul>

## 平成28年度～第1回ワークショップにおける意見

○意見数を合計し、高い値のものから上位としている。

活用の方向性	過去	WS	合計
①若年層の定住意識を高めるまちの魅力化	14	6	20
②子育て環境の充実	7	5	12
③公共施設の老朽化・狭隘化の解消	0	4	4
④施設の複合化	4	2	6
⑤防災関連施設の効果的な配置	7	15	22
⑥生活サービス関連施設等の効果的な配置	5	3	8
⑦空き家の利活用を誘導できる活用の展開	8	3	11
⑧街道めぐり体験等、中山道で栄えた宿場町の文化を活かした交流・集客イベントの場としての活用	11	13	24
⑨垂井曳きやまつり(練り込み出発点)を活かした観光戦略	12	9	21
⑩観光案内所と連携した担い手育成の場づくり	12	4	16
⑪子どもから高齢者までが安心して楽しめる場づくり	20	10	30
⑫子育て世代を中心に幅広い世代が住みやすい生活サービスの提供	12	2	14
その他	14	6	20
合計	126	82	208



順位	活用の方向性	合計
1	⑪子どもから高齢者までが安心して楽しめる場づくり	30
2	⑧街道めぐり体験等、中山道で栄えた宿場町の文化を活かした交流・集客イベントの場としての活用	24
3	⑤防災関連施設の効果的な配置	22
4	⑨垂井曳きやまつり(練り込み出発点)を活かした観光戦略	21
5	①若年層の定住意識を高めるまちの魅力化	20
6	⑩観光案内所と連携した担い手育成の場づくり	16
7	⑫子育て世代を中心に幅広い世代が住みやすい生活サービスの提供	14
8	②子育て環境の充実	12
9	⑦空き家の利活用を誘導できる活用の展開	11
10	⑥生活サービス関連施設等の効果的な配置	8
11	④施設の複合化	6
12	③公共施設の老朽化・狭隘化の解消	4

■現庁舎敷地等の活用の基本的考え方の整理

現庁舎敷地等の活用の方向性	現庁舎敷地等のあり方に対する意見要望 平成28年度～現在		第1回WS 課題認識と活用に関わる考え方の整理	現庁舎敷地等の活用の基本的考え方の整理
	整備の方向性について	整備内容のイメージについて		
①若年層の定住意識を高めるまちの魅力化	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地としての可能性を考える</li> <li>人口を増やすために活用</li> <li>人が集まる場所</li> <li>人口増に寄与する宅地分譲</li> <li>垂井地区活性化を考えた施設</li> <li>若者向けに駅と役場跡地を賑わいの中心にする</li> <li>仕事の場づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高層マンション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代がきたくなる場所</li> <li>東海道線が近い→通勤に便利→住宅</li> <li>電車の本数を増やす→利用者増</li> <li>若い世帯が入る(家賃の安い)集合住宅</li> <li>子育て支援つきの住宅</li> <li>住居として利用。利便性もよく、若い世代を呼ぶ</li> <li>更地にして古民家を移し、子供～3世代集める</li> </ul>	若者・子育て世代を中心とした幅広い世代の住宅の確保
②子育て環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>シングルマザー優遇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園</li> <li>子育て支援施設</li> </ul>		
③公共施設の老朽化・狭隘化の解消		<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉協議会や商工会などをひとつにまとめた施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災関連施設の効果的な配置</li> <li>取り壊して更地にし、広場を多くとる。</li> <li>防火目的の緑地帯</li> <li>避難、防災拠点として利用</li> <li>車庫を利用して倉庫とし活用する(防災備品)</li> <li>全体的には公園。アスレチック、遊具、非常時に使用できる資器材を兼ねたもの</li> <li>防災訓練センター(避難所設置訓練、防災関連器具を用いた訓練、災害ボランティア養成訓練)</li> <li>地震時の臨時ごみ置き場用広場</li> </ul>	地域の安全性を高める防災広場の確保
④施設の複合化		<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化した公共施設を集約</li> </ul>		
⑤防災関連施設の効果的な配置		<ul style="list-style-type: none"> <li>防災空地</li> <li>避難場所</li> </ul>		
⑥生活サービス関連施設等の効果的な配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>住んでいる人が便利に生活できるようなもの</li> <li>町民が参加できる出店の場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役場支所</li> </ul>		
⑦空き家の利活用を誘導できる活用の展開		<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館機能</li> <li>文化活動施設</li> <li>店舗・駐車場</li> <li>宿泊施設</li> </ul>		空き家等を活用した賑わい創出施設の確保(現庁舎敷地等の周囲の空き家活用)
⑧街道めぐり体験等、中山道で栄えた宿場町の文化を活かした交流・集客イベントの場としての活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化会館と差別化を図り、両輪でアートのまちを発信</li> <li>中山道垂井宿の活性化</li> <li>中山道を活かした広域的観光地</li> <li>街並み景観条例</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>芭蕉記念館のような施設</li> <li>民俗資料館</li> <li>図書館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽市楽座。利益を得て財政に貢献する。</li> <li>ランニングコストの安い施設・必要度を考慮</li> <li>文化・歴史のミュージアム常設</li> <li>垂井の文化、文化財を生かした交流、イベントの拠点</li> <li>日帰りコース、1泊2日コース等多くのプラン</li> <li>垂井町すべての祭りを紹介する建物</li> <li>観光の拠点、まちづくりの拠点、レッツなど出てくる。</li> <li>垂井まつりで集客をして、垂井おどりを定着させる</li> <li>観光アイテムに沿った集客、イベントの宣伝</li> <li>トイレと駐車場・宿泊所の設置</li> <li>観光協会事務拠点をつくる</li> <li>観光案内施設と複合マーケット</li> </ul>	垂井の歴史・文化を体感できるおまつり広場と観光サービス施設の確保
⑨垂井曳やまつり(練り込み出発点)を活かした観光戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>曳やまをメインとした地利活用</li> <li>祭りの発着点</li> <li>垂井曳きやま祭りは町の観光発信の核として後世まで引き継ぐべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曳やま会館</li> </ul>		
⑩観光案内所と連携した担い手育成の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>7地区の祭りを中心とした文化を紹介</li> <li>観光の情報発信</li> <li>垂井町観光協会を法人化(NPO化)</li> <li>観光案内拠点</li> <li>観光サービス施設(店舗・トイレ・案内板)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここにきたら垂井町がわかるという施設</li> </ul>		
⑪子どもから高齢者までが安心して楽しめる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段よりもワンランク上の生活が感じられ満足できるような空間</li> <li>ちょっとお洒落な空間が田舎の値段で味わえる</li> <li>老若男女が気軽に尋ねることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑一様の公園。ほっとできる空間</li> <li>子供の声が聞こえる親子で遊べる施設</li> <li>イベント広場</li> <li>軽スポーツ施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映画など上映できる小さなホール、習い事の発表ができる小さなホール</li> <li>カラオケ</li> <li>垂井町民が気軽に出入りできる場所作り</li> <li>全天候(特に冬)幼児～高齢者の交流場所</li> <li>若い人にも活用してもらえる場づくり</li> <li>芝生広場、箱物は必要ない</li> <li>福祉関連センター</li> <li>福祉、役場(支所や分室等)、社協が同じスペースで動ける</li> <li>シニア技術を生かし、こどものおもちゃ病院をつくる</li> </ul>	町民・地域住民が集い交流できる場の確保(コミュニティ・福祉関連施設等の確保)
⑫子育て世代を中心に幅広い世代が住みやすい生活サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>祭り中心のまちづくりではなく、垂井町全体に必要なことは何かを考え、大きな視野で考えていくことが大切</li> <li>7地区にとって有効に活用できるよう考えていく</li> <li>高齢者のために活用</li> <li>商業施設の誘致</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康生き生き館</li> <li>ホームセンター</li> <li>社会福祉センター</li> </ul>		
○その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>『あまったらい』聖地</li> <li>西美濃映画祭</li> <li>自転車を利用したまちづくり</li> <li>売却</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水耕栽培</li> <li>カジノを誘致</li> <li>仮想通過</li> <li>Free Wi-Fi</li> <li>駐車スペース</li> <li>クラフトビール醸造所兼ビアレストラン</li> <li>町産業のアンテナショップ</li> <li>温泉・足湯</li> <li>展望タワー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光客、ビジネスマンの宿泊所。災害時には避難所としても利用。入浴施設も有り</li> <li>温泉</li> <li>外国人向け宿泊施設</li> <li>合宿所タイプ(自炊もできるし、フルサービスなども選べる)</li> </ul>	新たな集客施設・イベント等の確保



## ■現庁舎敷地等の活用方針の検討

### ① 町民・地域住民が集い交流できる場の確保

- ・憩いの場の確保
- ・文化・交流及び福祉施設の確保（公民館機能等との連携）

### ② 垂井の歴史・文化を体感できるおまつり広場と観光サービス施設の確保

- ・おまつり・イベント広場の確保
- ・物販・飲食・休憩・トイレなどのサービス施設の確保
- ・日常的な生活サービス・憩いの場としても活用

### ③ 地域の安全性を高める防災広場の確保

- ・街なかのオープンスペースの適切な確保
- ・避難所として利用できる防災施設の確保
- ・平常時は賑わい・交流および日常的な憩いの場などとして利用

### ④ 若者・子育て世代を中心とした幅広い世代の住宅の確保

- ・鉄道利便性を活かし、本町への定住を誘導する住宅地の確保
- ・人口定住と賑わい・交流の場づくりの相乗効果を期待し地域活性化に寄与

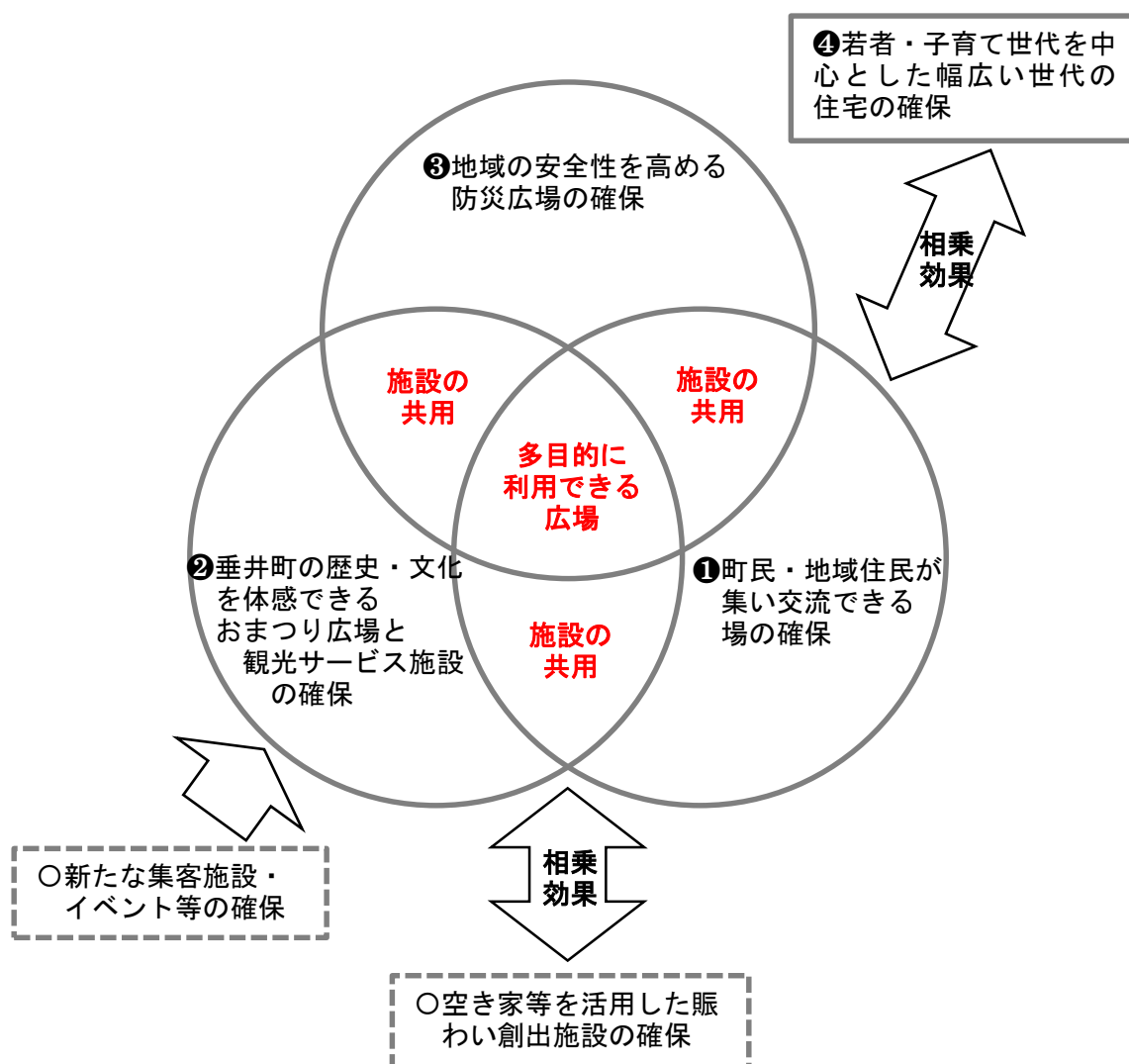
### ○新たな集客施設・イベント等の確保

- ・①～④を活用した新たな集客施設・イベント等の確保

### ○空き家等を活用した賑わい創出施設の確保地域活性化に寄与

- ・現庁舎敷地等の賑わい創出とあわせた垂井宿を中心とした街なかの空き家等の効果的活用
- ・敷地利用と空き家等の活用の相乗効果を期待し地域活性化に寄与

＜現庁舎敷地等の活用の基本的な考え方のイメージ＞



◎現庁舎敷地等の土地・建物利活用の方針

- 1) 現庁舎敷地等は極力広場として多目的に活用する。
- 2) 防災・観光および交流・福祉に関する施設は効率的な共用を図り、必要最低限の整備とする。
- 3) 民間等による地域活性化を誘導し、住宅を中心に民間施設用地としての利用を想定する。
- 4) 周囲の空き家等の効果的な活用を図る。  
これらは、お互いの相乗効果を意識して展開する。

■第2回 町民ワークショップ・プログラム案

垂井町現庁舎敷地等活用基本構想 あり方検討ワークショップ

※第2回町民ワークショップにつきましては、第1回町民ワークショップと同様の形式で若い世代（子育て世代）を中心に行い、幅広い意見をもとに第3回あり方検討委員会へ進めていく。

テーマ：「敷地利用の活用の方向性を話し合おう！」

1. 活用の方向性について重要度と優先度を考える。  
あり方検討委員会の協議結果で整理した「対応策の思案」12項目の中から、1人ずつ上位3項目を考え、付箋に氏名を書いて「活用思案整理シート」に配置する。  
※追加したい活用思案があれば、付箋に記入して追加する。

<活用思案整理シート>

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	
その他	

2. 活用イメージを話し合う。  
活用思案整理シートの結果から、優先度・重要度の高い3つを選び、その活用思案に対応した敷地等の活用イメージを話し合う。  
※ポイントが高い3つを選んでも良く、ポイントが低いもの、その他の案（活用思案）を選んでも良い。グループで話し合って決める。

<活用イメージシート>

選んだ活用思案	活用イメージ
1.	
2.	
3.	

3. グループ毎に発表

4. 講評

グループワークの結果を総括し、活用の基本的な考え方のイメージを整理する。（参加者と共有する）

※上記の整理結果をもとに、第3回委員会資料（活用方針）を整理する。